

研修報告書No. 1 2

所 属：県外大学病院研修医

研修先：特定医療法人長生会 大井田病院

医療法人聖真会 渭南病院

宿毛市沖の島へき地診療所

今回地域医療研修で高知県にある大井田病院、沖の島へき地診療所、渭南病院で研修させていただきました。実習の一環として地域医療を行うことになっておりますが、高知を選んだ理由としては、生まれが四国であったこと、また親戚が高知県にいるため他の地方よりも慣れていたことがあります。また親戚からは高知県は過疎化、高齢化が進んでいることも聞いており、実際に現場を見て現状を知っておきたいとも思いました。

高知県では全国に約10年先行して高齢化が進んでおり深刻な問題であります。過疎化も進んでおり、老人の独居生活も珍しくありません。また人口10万人当たりの医療従事者は263.2人と全国では上位ではありますが、地域の偏在化が進んでおり、中央医療圏に8割が集中している問題があります。今回実習した地域でも医療資源の不足が問題となっております。その他、救急搬送の時間の問題などたくさんありますが、今回の実習では高齢化の進む高知県で少ない医療資源のなか、「いかに効率のいい医療を提供できないか」を考えることにしました。

実習として訪問看護・介護のお仕事、特別養護老人ホーム、訪問診療、地域包括ケアセンターなどを見学させていただいたのですが、実際にどのような仕事をしていて、地域ではどのような役割を担っているのか知りませんでした。しかし実習を終えて、いかに病院以外のこれらの施設・仕事が大切であるかを感じました。訪問診療・看護は一人では病院に行くことができない独居の患者さんなどに対して医療を施すことができます。実際に実習中 Vital の測定、採血、レントゲン、点滴などを行いました。最近ではエコーも行うことができます。これにより体が不自由で動くことのできない患者さんの負担を軽減することができます。また家族がいる場合でも、家族の負担を軽減することもできます。高知県民は夫婦共働きの世帯も多く、なかなか家族がいても病院に連れてくることによる負担が大きいと聞きました。しかし、すべての家族に対し訪問診療を行うことは今の医療資源では不可能であり、その助けとなっているのが、地域包括ケアセンター、訪問看護などによる高齢者を観察する方々の存在であると感じました。訪問診療とは違い状態が悪化するのを予防し、生活の質の向上を行っていました。訪問診療も予防的な観点は含まれますが、さらに生活、家族構成、社会的な部分にまで踏み込んでその方の問題点を解決していました。このように地域包括ケアセンターを土台とし、訪問診療・看護・介護が行われ、病院につないでいく仕組みがこれからの高知を支えていくと学びました。

ではこの仕組みをどのようにすれば無駄の少ない効率的な医療を提供できるかを考えたところ、“連携”をなくして成り立つことはないと感じました。この地域医療実習ではこの

連携をたくさん見ることができました。実際、地域包括ケアセンターの見学の際、住民の自宅を訪問させていただいたのですが、外傷の患者がおり、それを見たスタッフの方が病院に連絡し、病院の受診を促していました。普段から住民の方を見ているからこそ、細かい変化に気づくことができ、それを医者に報告するこの連携こそが、今後の大きな病気・事故を未然に防いでいくのだと感じました。病院内の連携はどこの病院でも行われていますが、このような連携は都内ではなかなか見ることができません。地域に密着し医療を行えることが本来の医療であると感じさせられました。

高知は自然が豊富で高齢者の方々はみな健康の方が多いと感じましたが、今後もそれを支えていくためには、限りある医療資源の中で、連携を強化していくことであると感じました。

最後に、高知は空気も新鮮で食事とてもおいしく、水（お酒）もきれいでおいしかったです。実習先でお世話になった方々や患者さんも優しく気さくな方々ばかりでした。またぜひ幡多に来たいと感じました。